

2026年4月12日

各 位

小松一二三丁目町会
町会長 廣瀬 房男

小松町会 2026年度：事業計画骨子
—選択と集中による持続可能な組織創造へ—

2026年度の町会運営の基本を以下とします。

選 択 と 集 中 に よ る 持 続 可 能 な 組 織 の 創 造

このスローガンのもと、2026年度から以下の目標・目的達成の為の活動方針を定めていきます。

- 目 的：持続可能な町会運営の実現
目 標：選択と集中による、効率的な資源活用

「2026年活動方針」

- ① 町会事業の見直しによる「選択と集中」
- ② 資源（人・物・金・時間）の有効活用促進
- ③ 町会活動拡大のための、サポーター体制の確立

「各項目の取り組み概要」

- ① 町会事業を区分し、その優先順位の中で効率的に活動する
- ② 資源の再配分を行い、事業の効率的な執行の為の予算管理並びに、その執行体制を変革する
- ③ 町会本体で執行する事業以外のイベント等の円滑な運営を図るため、その事業ごとのサポーター体制を構築する

「選択と集中の為の事業区分」

	事業区分	事業の基本	具体的な事業例
1	安全 安全	安心・安全な生活の、維持向上の為の活動	防犯対策事業 防災に強いまち創り事業
2	交流 福祉	誰もが幸せに暮らせる地域実現のための事業	高齢者福祉への補助事業 未来創造事業（こども育成）
3	伝統 文化	地域の歴史や文化を守り、次の世代に伝えていくための事業	祭り補助事業 小松の文化財調査事業 餅つき大会補助
4	行政連携 情報共有	地域の課題を行政と連携し解決する事業。また、様々な情報を町民が共有できるための事業	情報伝達手段の強化・促進 行政等との連携強化の促進

上記一覧の4つの事業区分の優先順位や執行方法を検討し、資源の効率的な運用を図る。

「各事業区分に対する町会の対応姿勢の基本」

町会役員の過重な負担を分散し、持続的な組織の構築の為、町会主体の事業を「1：防災・安全」とし、「2と3」の事業は各団体やサポーター組織に移管する。「4」については継続し役員会に一任する。

以上を2026年度の事業計画骨子としたいと思います。

宜しくお願い致します。

「2026 年度主な事業」

	事業区分	2026 年度主な事業	実施予定事業
1	安全安心	防犯に強いまち創り事業	新規) 防犯カメラ設置補助
			新規) 空き家調査
			継続) 防犯訓練
		防災に強いまち創り事業	継続) 防災訓練
			新規) 小松防災お助け隊の創設準備
			新規) 小松防災マップ作製調査&準備
2	交流福祉	高齢者福祉への補助事業	継続) 小松シニアクラブ事業への協賛
			新規) 民生委員費用弁償補助制度
		未来創造事業	新規) 公民館開放の運用準備室の開設
			新規) こども育成会実施事業への協賛
3	伝統文化	祭り補助事業	継続) 小松夏祭りの共催
		小松の文化財調査事業	新規) 小松文化財マップ作製準備室の開設
		餅つき大会補助	継続) 小松の餅付き大会の後援
ら 4	行政連携 情報共有	情報伝達手段の強化	新規) 小松を語ろう会の開催
			新規) 小松公式LINEの開設と利活用促進
			継続) 小松通信HP版運用強化&利活用促進
			継続) Komatsu 通信第四号の発行
		行政との連携強化	継続) 市委託事業の実施
			新規) 周辺町会との連携事業への参加
			継続) 千鳥ヶ池浄化事業の促進

「新規) 民生委員費用弁償補助制度」について

費用弁償について

民生委員には「報酬」は支給されません。その代わりに活動にかかる費用の一部として費用弁償（年額 65,000 円程度）が支給されます。

しかし、その内年額 36,000 円程度を互助会費・資料代等として支出。その為、実質の費用弁償は「29,000 円程度」にしかありません。ここから活動時の移動にかかる車両費・燃料代や携帯の電話代、ノートや筆記具等の文房具代等々、全てを賄わなければいけません。

そこで、本年度より「民生委員費用弁償補助制度」を新設したいと思います。ご理解をお願い致します。

「町会活動拡大のための新体制の確立」

新事業体制の遂行の為、従来の町会活動の執行体制を見直し、幅広い皆さんの参加を促し、より効果的な運営体制を構築します。その為の主な変更は以下の通りです。

1. 町会主催事業を「1：安心・安全」の事業区分に集約し、より効果的な事業展開を目指す。
2. 事業の実施主体を見直し、その事業毎に最適な団体にその実施を委託する。
3. これまでの協力団体以外に、町会事業の運営を担うサポーター団体を組織する。
4. 町会活動を理解し、その実施に協力いただく事の出来る方を育成するためにも「小松を語ろう会」を定期的開催し、持続可能な組織体制の構築を目指す。